

# 【平成26年2月の経済報告】

本稿は、マイクロマシン／MEMS を取り巻く経済・政策動向のトピックを、いろいろな観点からとらえて発信しています。

## 1. 経済全体の状況

### ◎国内経済の概況

月例報告（内閣府）（平成26年1月17日公表）※最新のデータで作成

#### 【日本経済の基調判断】

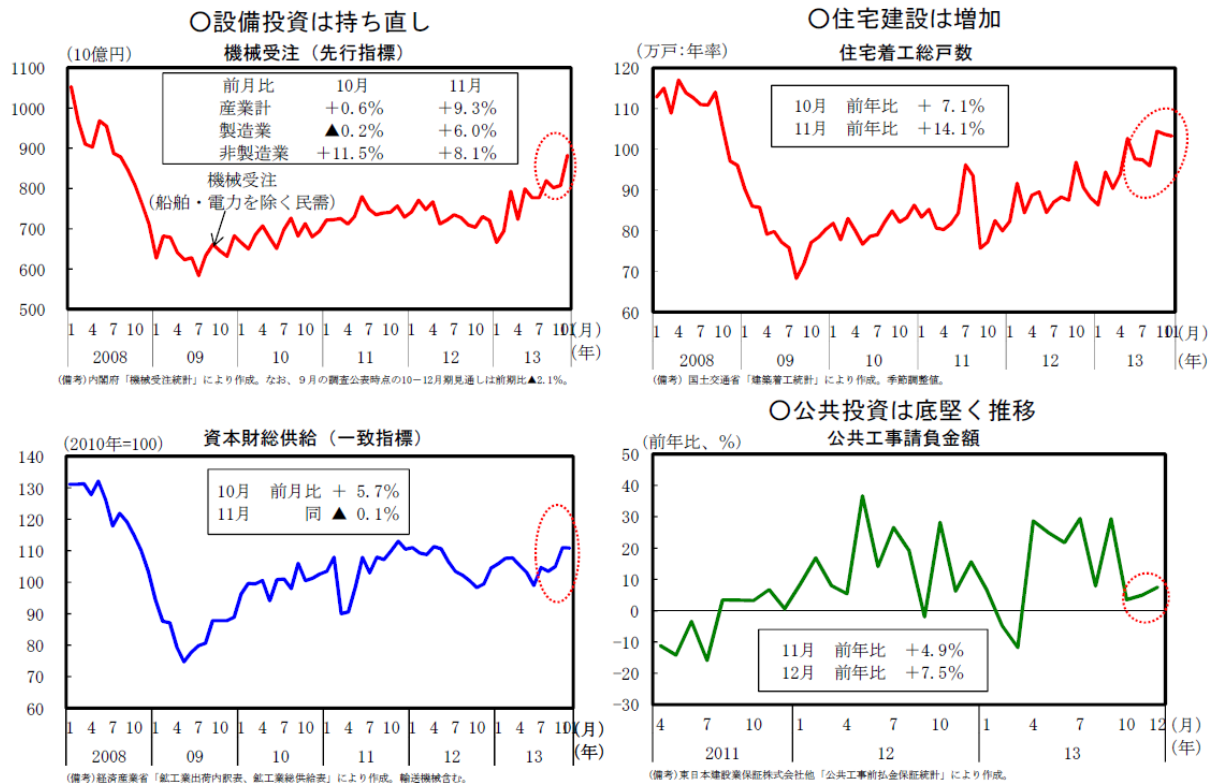
<現状>

- ・景気は、緩やかに回復している。
- ・物価は、底堅く推移している。

<先行き>

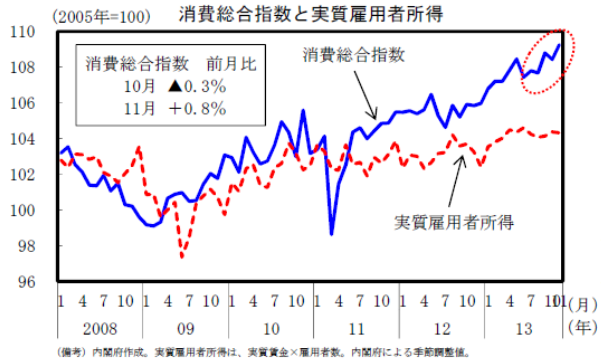
先行きについては、輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が下支えするなかで、家計所得や投資が増加し、景気の回復基調が続くことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、消費税率引上げに伴う駆け込み需要及びその反動が見込まれる。

### 投資の動向

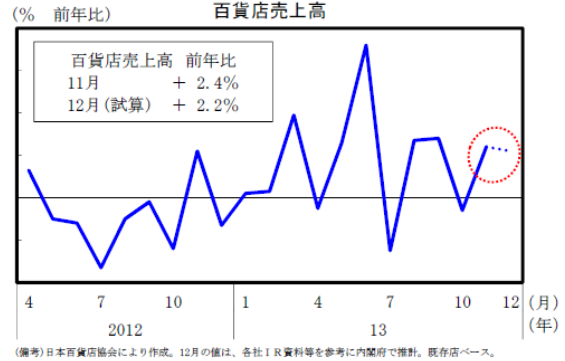


## 個人消費の動向

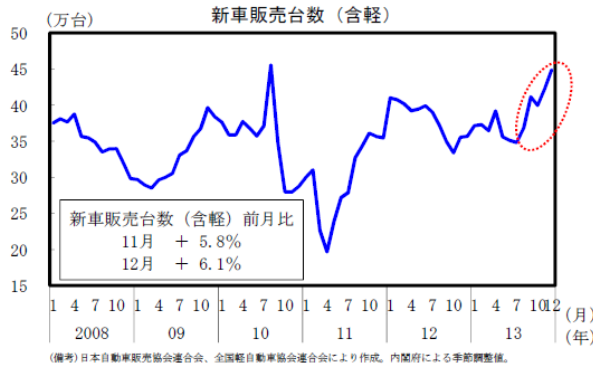
### ○消費は増加



### ○百貨店売上は好調



### ○自動車販売は大幅に増加

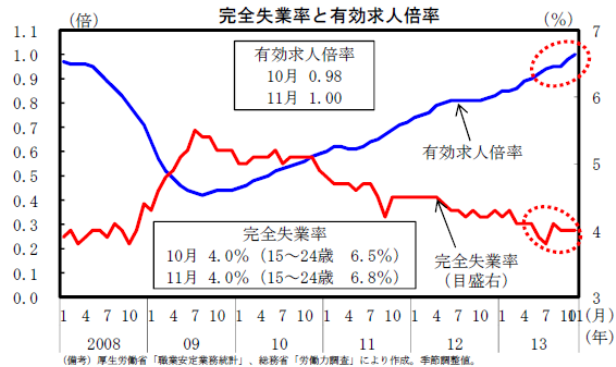


### ヒアリング結果(初売りの概況)

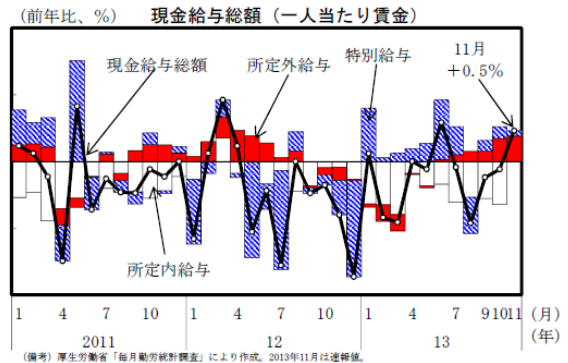
百貨店A社	福袋は、単価100万円を超えるものが初日に完売したほか、単価10万円以上の高額な福袋も好調だった。なかでも、紳士物福袋の売上が前年の約3倍程度となった。
百貨店B社	セーター、ブーツ等の冬の売れ行きが好調。お正月の縁起物としての干支のリビング用品や、新年特有の買い換え需要がある財布などもよく売れた。また、化粧品の上も前年を上回った。
百貨店C社	単価数十万円の宝飾品の福袋がよく売れた。また、正価であるものについても、高額商品は好調な売れ行きを見せたが、通常の価格帯の一般商材については軟調だった。

## 雇用・賃金の動向

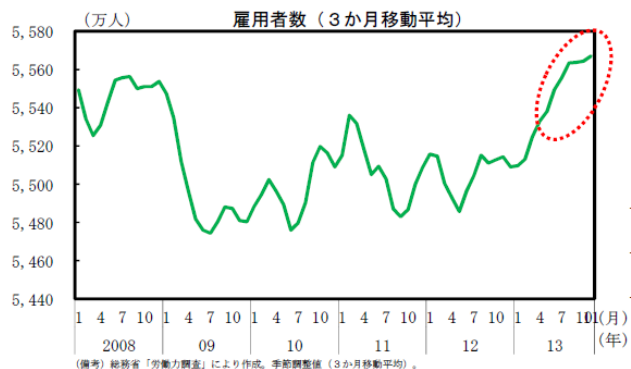
### ○雇用情勢は改善



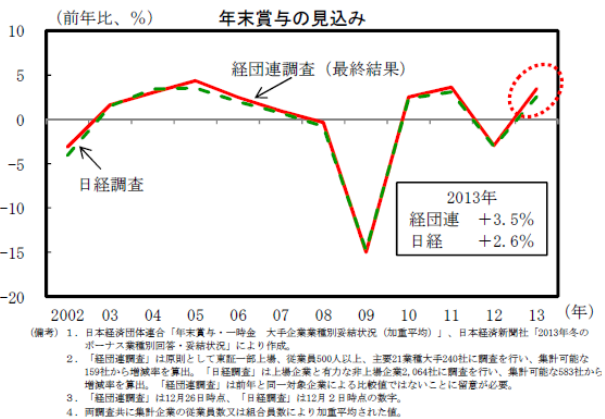
### ○一人当たり賃金は前年比で横ばい圏内



### ○雇用者数は増加傾向

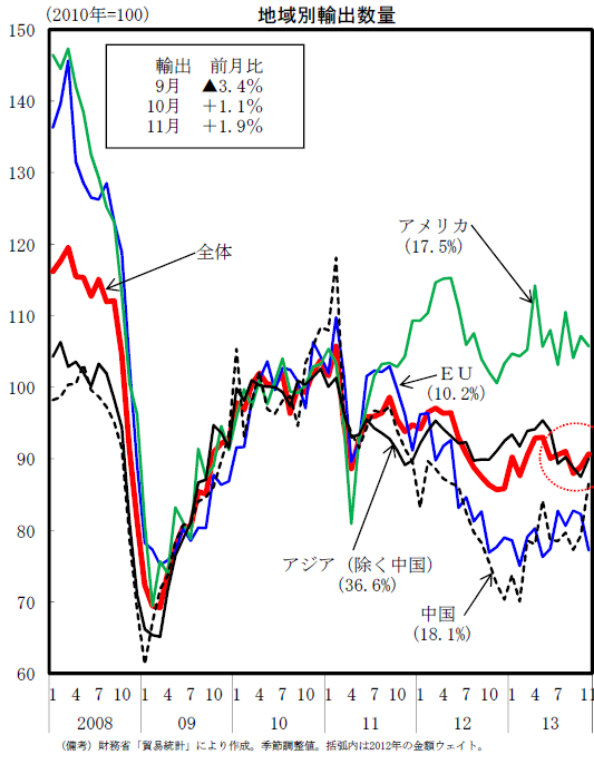


### ○年末賞与は増加の見込み

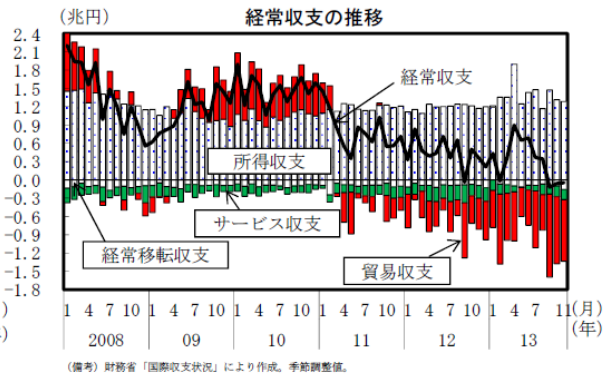
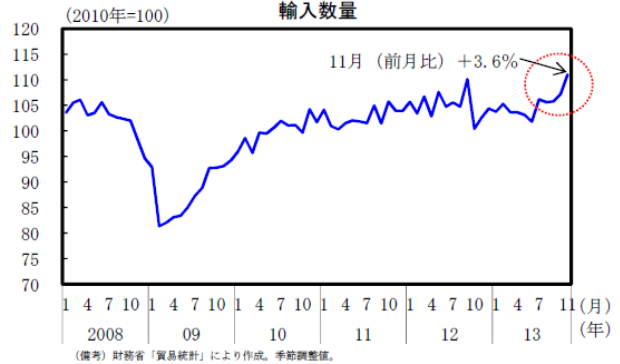


## 外需の動向

○輸出はこのところ弱含み

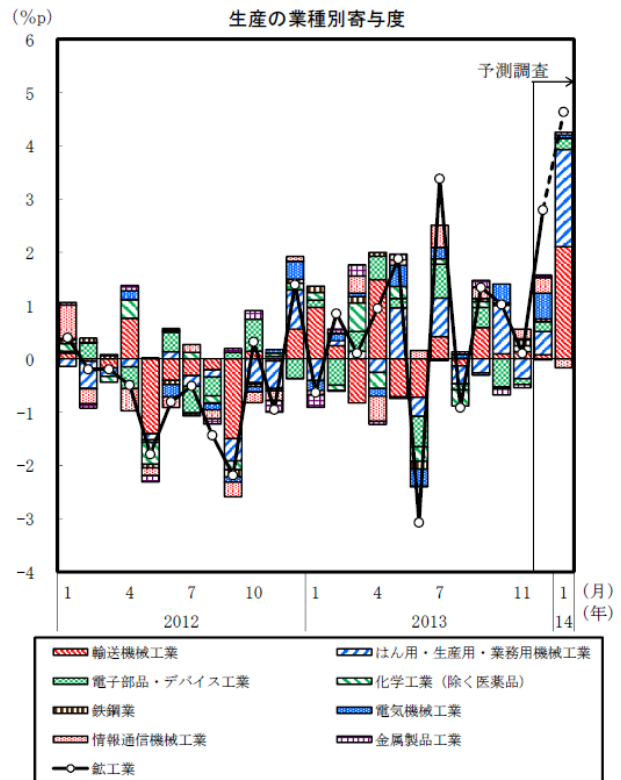
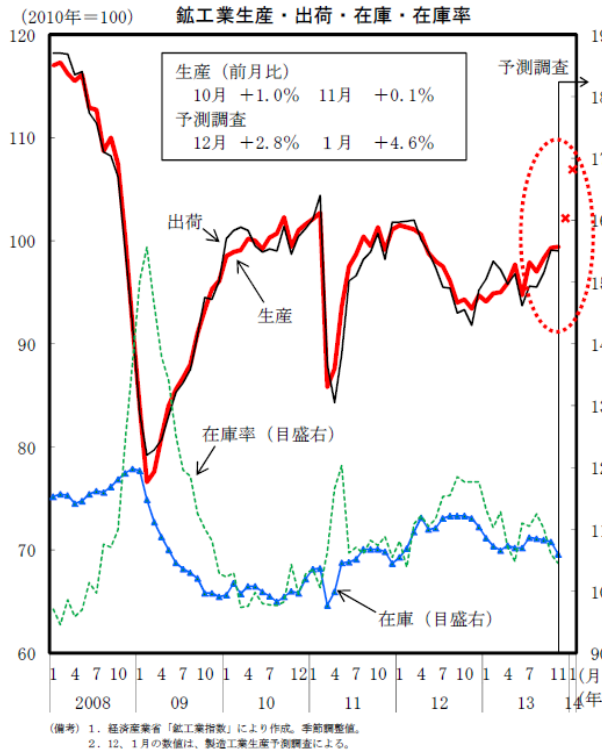


○輸入は持ち直し



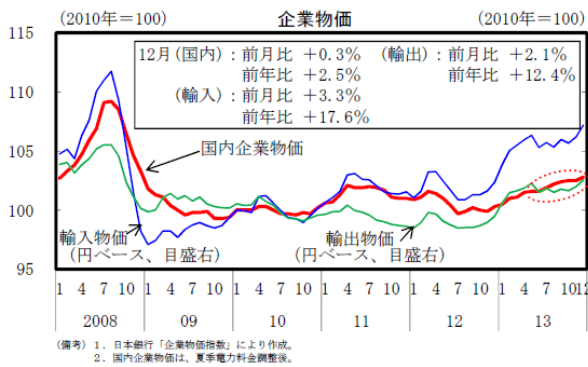
## 生産の動向

○生産は緩やかに増加

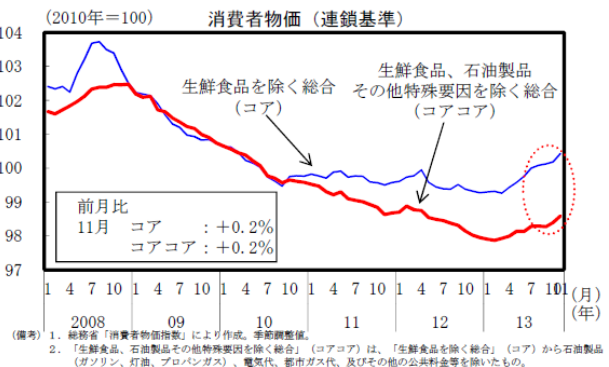


## 物価の動向

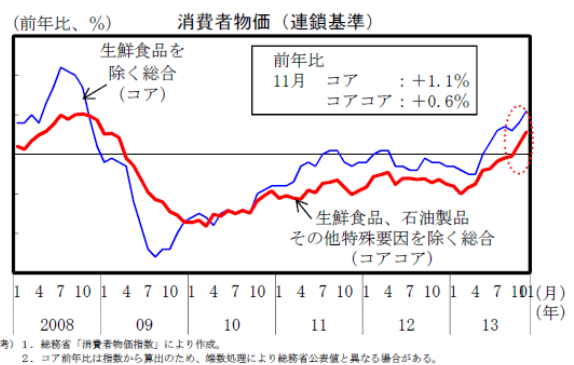
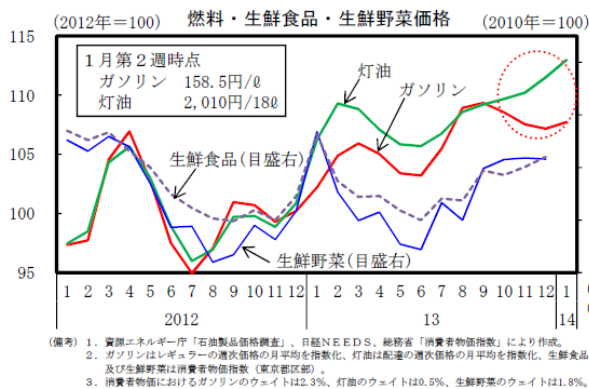
○国内企業物価は緩やかに上昇



○消費者物価は底堅く推移



○灯油価格は上昇



※ なお詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2014/01kaigi.pdf>

## ◎ 設備投資

平成 25 年 12 月実績および平成 26 年 1～3 月見通し：機械受注統計調査報告  
(平成 26 年 2 月 12 日公表 内閣府経済社会総合研究所)

機械受注総額(季節調整値)の動向をみると、25 年 11 月前月比 5.8%減の後、12 月は同 3.1%減の 2 兆 902 億円となった。

需要者別にみると、民需は前月比 9.2%減の 9,021 億円、官公需は同 6.5%増の 2,649 億円、外需は同 8.6%増の 8,417 億円、代理店は同 3.0%増の 1,027 億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向を見ると、25 年 11 月前月比 9.3%増の後、12 月は同 15.7%減の 7,441 億円となった。このうち、製造業は同 17.3%減の 2,926 億円、非製造業(除く船舶・電力)は同 17.2%減の 4,557 億円となった。

10～12 月をみると、受注総額は前期比 0.2%減の 6 兆 5,731 億円となった。需要者別にみると、民需は同 3.3%増の 2 兆 9,014 億円、官公需は同 15.5%減の 7,955 億円、外需は同 9.3%減の 2 兆 4,998 億円、代理店は同 7.9%減の 3,077 億円となった。また、「船舶・電

力を除く民需」は同 1.5%増の 2 兆 4,339 億円、製造業は同 0.6%増の 9,802 億円、非製造業（除船舶・電力）は同 7.5%増の 1 兆 5,158 億円となった。

平成 26 年 1～3 月見通しをみると、受注総額は前期比 0.8%減の 6 兆 4,886 億円の見通しになっている。需要者別にみると、民需は同 4.0%減の 2 兆 7,855 億円、官公需は同 5.9%減の 7,485 億円、外需は同 12.6%増の 2 兆 8,147 億円、代理店は同 9.2%減の 2,793 億円の見通しになっている。また、「船舶・電力を除く民需」は同 2.9%減の 2 兆 3,622 億円、製造業は同 1.8%減の 9,627 億円、非製造業（除船舶・電力）は同 5.9%減の 1 兆 4,259 億円の見通しになっている。

平成 25 年実績をみると、受注総額は前年比 7.9%増の 25 兆 6,041 億円になっている。需要者別にみると、民需は同 5.7%増の 10 兆 9,737 億円、官公需は同 9.0%増の 3 兆 2,998 億円、外需は同 10.3%増の 10 兆 1,685 億円、代理店は同 5.2%増の 1 兆 1,622 億円になっている。また、「船舶・電力を除く民需」は同 5.8%増の 9 兆 3,232 億円、製造業は同 0.7%増の 3 兆 6,858 億円、非製造業（除船舶・電力）は同 9.7%増の 5 兆 6,764 億円になっている。

### 対前月(期)比

(単位:%)

需要者	期・月	平成 25 年 実績	平成25年 4-6月 実績	7-9月 実績	10-12月 実績	平成26年 1-3月 見通し	平成25年 9月 実績	10月 実績	11月 実績	12月 実績
受注総額		7.9	3.3	4.9	-0.2	-0.8	13.2	-4.6	-5.8	-3.1
民需		5.7	5.0	4.9	3.3	-4.0	-0.9	7.0	-1.3	-9.2
〃 (除船電)		5.8	6.8	4.3	1.5	-2.9	-2.1	0.6	9.3	-15.7
製造業		0.7	5.6	9.8	0.6	-1.8	4.1	-0.2	6.0	-17.3
非製造業(除船電)		9.7	12.5	-4.1	7.5	-5.9	-7.0	11.5	8.1	-17.2
官公需		9.0	24.7	8.6	-15.5	-5.9	42.9	-26.2	-11.9	6.5
外需		10.3	4.9	10.9	-9.3	12.6	12.1	-16.0	-12.2	8.6
代理店		5.2	-11.9	7.9	7.9	-9.2	-4.2	13.2	-5.5	3.0

(備考) 1. 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

※ なお詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1312juchu.html>

## 2. 関係する産業動向

### ◎ 鋳工業指数調査 平成25年12月分速報】（平成26年1月31日発表）経済産業省

－ 生産は持ち直しの動きで推移 －

- 今月は、生産、出荷が上昇、在庫は低下、在庫率は上昇であった。
- 製造工業生産予測調査によると、1月、2月とも上昇を予測している。
- 総じてみれば、生産は持ち直しの動きで推移している。

平成22年=100

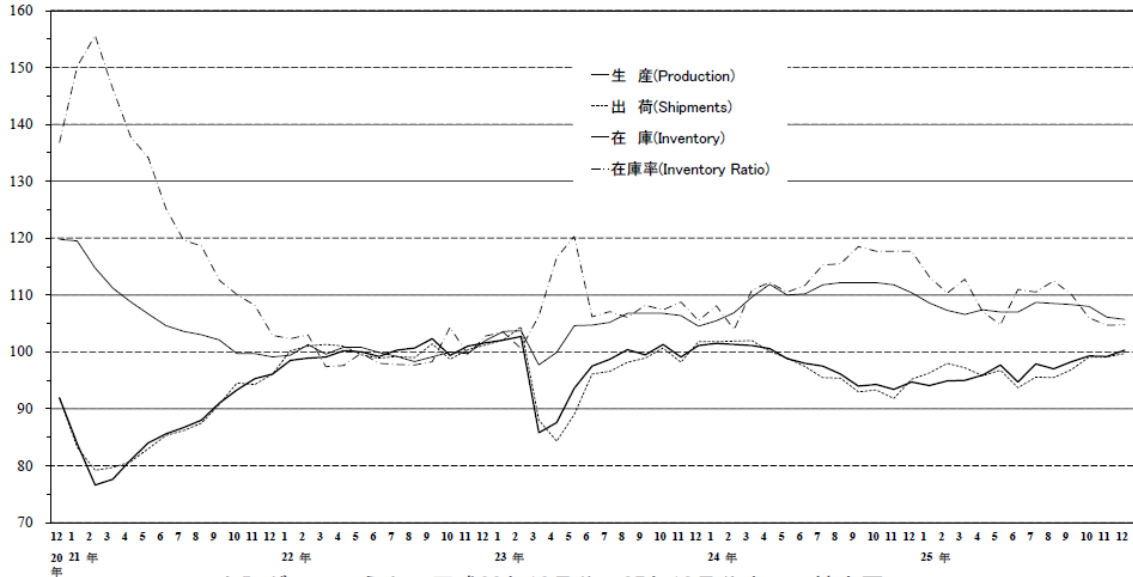
項目	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比(%)	指数	前年同月比(%)
生産	100.3( 99.2)	1.1(▲ 0.1)	100.1	7.3
出荷	99.7( 99.1)	0.6( 0.0)	100.5	6.1
在庫	105.7( 106.1)	▲ 0.4(▲ 1.8)	105.8	▲ 4.3
在庫率	104.8( 104.7)	0.1(▲ 1.2)	101.6	▲ 11.0

注1：○内は前月における確報値・前月比。

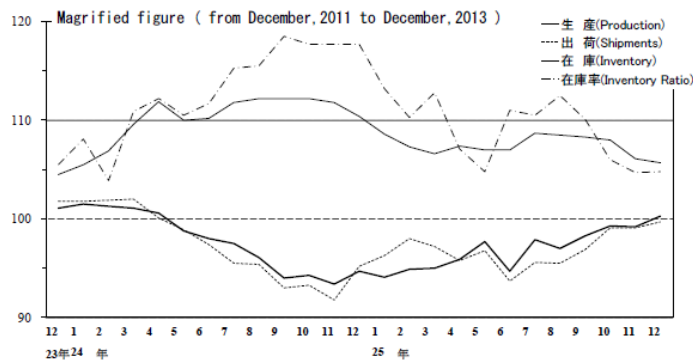
注2：▲はマイナスを示す。

### 鋳工業生産・出荷・在庫・在庫率指数の推移

(平成22年基準・季節調整済指数)  
(2010 average=100・Seasonally Adjusted Index)



#### 上記グラフのうち、平成23年12月分～25年12月分までの拡大図



## 1. 12月の生産・出荷・在庫動向

### 1. 生産

12月の生産は、前月比1.1%の上昇と2か月ぶりの上昇（前年同月比は7.3%の上昇）となり、指数水準は100.3（季節調整済）となった。生産の上昇に寄与した業種は、はん用・生産用・業務用機械工業、金属製品工業、電子部品・デバイス工業等であった。品目別にみると、アクティブ型液晶素子（中・小型）、数値制御ロボット、非標準変圧器の順に上昇に寄与している。

### 2. 出荷

12月の出荷は、前月比0.6%の上昇と4か月連続の上昇（前年同月比は6.1%の上昇）となり、指数水準は99.7（季節調整済）となった。出荷の上昇に寄与した業種は、電気機械工業、金属製品工業、非鉄金属工業等であった。

### 3. 在庫

12月の在庫は、前月比▲0.4%の低下と5か月連続の低下（前年同月比は▲4.3%の低下）となり、指数水準は105.7（季節調整済）となった。在庫の低下に寄与した業種は、鉄鋼業、輸送機械工業、繊維工業等であった。

12月の在庫率は、前月比0.1%の上昇と4か月ぶりの上昇（前年同月比は▲11.0%の低下）となり、指数水準は104.8（季節調整済）となった。

## 2. 製造工業生産予測調査

製造工業生産予測調査によると、1月は前月比6.1%の上昇、2月は同0.3%の上昇を予測している。1月の上昇は、はん用・生産用・業務用機械工業、輸送機械工業、電気機械工業等による。2月の上昇は、はん用・生産用・業務用機械工業、金属製品工業、電子部品・デバイス工業等による。

12月の実現率は▲1.8%、1月の予測修正率は▲0.5%となった。

製造工業生産予測調査（季節調整済前月比(%)）	平成22年=100		
	平成25年12月	平成26年1月	平成26年2月
平成25年12月調査	2.8	4.6	
平成26年1月調査		6.1	0.3

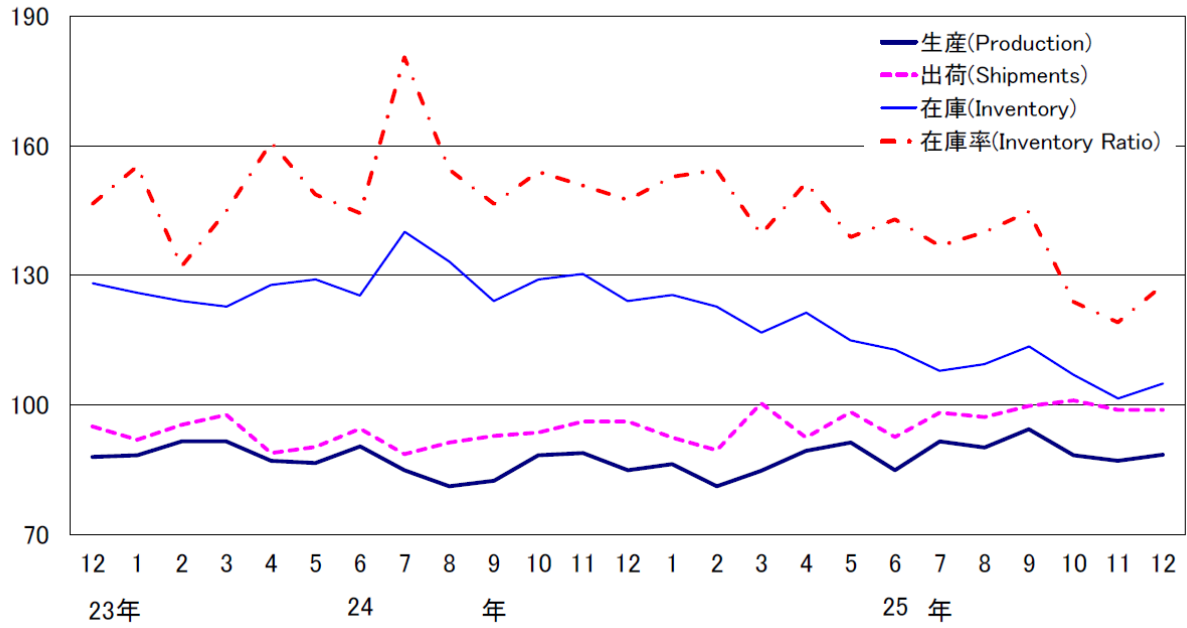
注) ▲はマイナスを示す。

## 3. まとめ

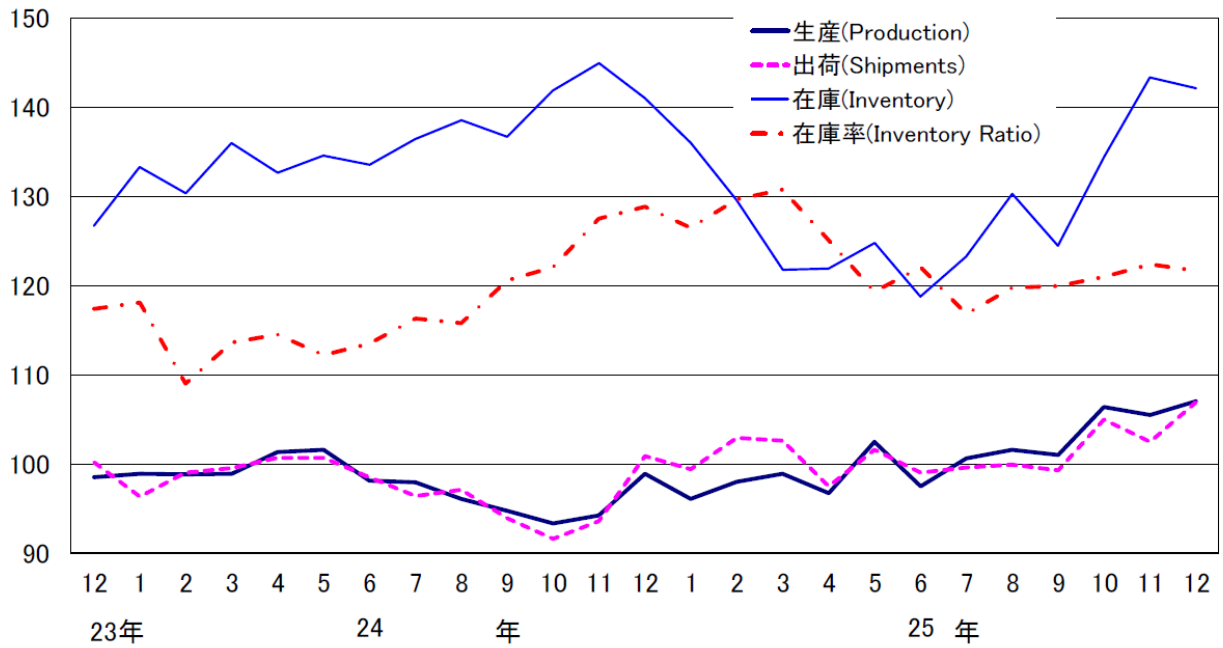
12月の生産は、前月比1.1%の上昇となった。また、製造工業生産予測調査によると、1月、2月とも上昇を予測している。総じてみれば、生産は持ち直しの動きで推移している。

(参考)

### 電子部品・デバイス工業 Electronic parts and devices



### 電気機械工業 Electrical machinery





### 3. 政策動向

#### 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP(エスアイピー))政策参与への辞令交付と意見交換について【平成25年12月18日、25日】

山本科学技術政策担当大臣は、平成25年12月18日及び25日、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の10の対象課題候補について、研究開発計画や実用化・事業化に向けた出口戦略の具体化のために採用する10名の政策参与に対して、安倍内閣総理大臣名の辞令を交付しました。

その後の意見交換において、山本大臣は、SIPは総合科学技術会議の司令塔機能を強化し、科学技術の強みを発揮して強い市場を創造するための安倍内閣における国家重点プログラムであり、このための研究開発を府省一体で進めることが可能となる画期的な仕組みを備えていることを説明し、政策参与への強い期待を述べました。これに対して、政策参与から、今後のビジョンや抱負が述べられ、決意表明がなされました。

#### <戦略的イノベーション創造プログラム 政策参与>

##### エネルギー

革新的燃焼技術	トヨタ自動車株式会社エンジン技術領域領域長 杉山雅則
次世代パワーエレクトロニクス	三菱電機株式会社開発本部役員技監 大森達夫
革新的構造材料	東京大学名誉教授、新構造材料技術技術研究組合理事長、物質・材料研究機構顧問 岸輝雄
エネルギーキャリア	東京ガス株式会社代表取締役副社長 村木茂
次世代海洋資源調査技術	東京大学名誉教授、国際資源開発研修センター顧問 浦辺徹郎

##### 次世代インフラ

自動走行(自動運転)システム	トヨタ自動車株式会社技監 渡邊浩之
インフラ維持管理・更新・マネジメント技術	東京大学工学系研究科特任教授 藤野陽三
レジリエントな防災・減災機能の強化	京都大学防災研究所教授 中島正愛

##### 地域資源

次世代農林水産業創造技術	法政大学生命科学部教授 西尾健
革新的設計生産技術	株式会社日立製作所日立研究所主管研究長 佐々木直哉

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の概要については以下のHPをご参照ください。

[http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/wg\\_nano/2kai/siryos3-1.pdf](http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/wg_nano/2kai/siryos3-1.pdf)